

1 オオフトオビドロバチ



ハチ宿の竹筒を見に来ているようです。筒の中に卵を産み、幼虫の食べ物になる小さい虫と一緒に入れ、泥で蓋をします。

2 クワカミキリ

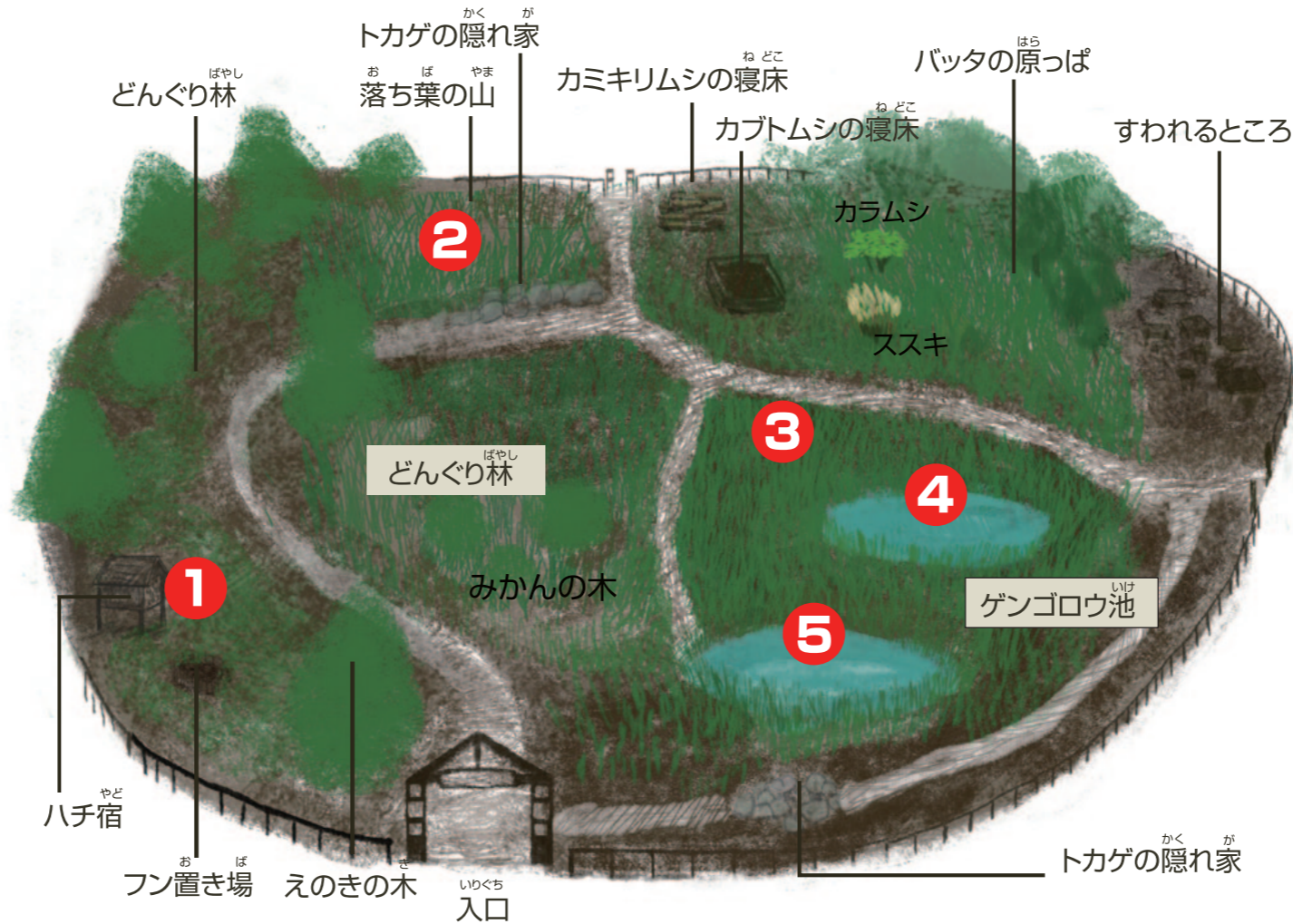


幼虫はクワの幹の中で木を食べて成長し、成虫になると外側の樹皮を食べます。クワの実を食べませんが、毎年実が熟す頃によく見かけるようになります。

今週の

いきもの広場

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。雨がっていますが、梅雨の晴れ間はいつもより多くのいきものが飛び立つ絶好の観察日和。ぜひお越しください。



5 オオシオカラトンボのオス



青い体のオスは池のまわりを飛び回り、他のオスが来ると追い返します。メス（右）は黄色い体をしています。

4 モノサシトンボ



枝のような細い体と、池のふちの草むらに隠れていることが多いため、なかなか気付かれませんが、美しい姿をしています。

3 カマキリのなかまの幼虫

昨年の秋に産みつけられた卵（左）から、5月～6月頃にふ化したようです。まだ翅がありません。草原や樹木の葉の裏で、バッタの幼虫などの獲物を狙っています。ちなみに、緑色の個体のほか、茶色の体の個体（右）も見かけます。



カブトムシの幼虫はお休みします

いよいよさなぎになる大事な時期になったので、カブトムシの幼虫を探すのは、しばらく休止します。

